



Dainichiseika

2026年3月期 第2四半期(中間期) 決算説明会

彩りの、その先へ。

今日の未知は、未来への道

大日精化工業株式会社

2025年12月4日

■ サマリー	P3
■ 2026年3月期 第2四半期(中間期) 連結決算	P5
■ 2026年3月期 連結業績予想	P15
■ 株主還元	P18
■ 中期経営計画2年目の進捗 設備投資計画進捗	P21
■ 参考資料	P23

■サマリー

2026年3月期 第2四半期(中間期) 実績

	中間期実績	前年同期比
売上高	617億円	△4億円 △0.7%
営業利益	41億円	+6億円 +18.1%

- 自動車向けは、一部採用車種低迷も回復
- 液晶ディスプレイ向けの顔料は前年同期並み、コーティング剤は第2四半期以降低調
- 海外は全般的に好調も、中国・米国現地法人の低調により前年同期には及ばず

2026年3月期 業績予想

	通期予想	前期実績比
売上高	1,273億円	+25億円 +2.0%
営業利益	72億円	+1億円 +2.8%

- 自動車向け、液晶ディスプレイ向けともに堅調に推移する見通し
- 特別利益…投資有価証券売却益15億円計上(P16参照)

株主還元

	中間配当金	期末配当金 予想	通期配当金 予想
配当金 (うち 特別配当)	87円 (15円)	87円 (15円)	174円 (30円)

- 8月に自己株式11億円取得
- 中間配当金87円(うち特別配当15円)
- 旧川口製造事業所跡地の譲渡益に伴う株主還元として、2024年3月期から4期間にわたり、毎期30円(2027年3月期は分割後基準7.5円)の特別配当を実施

■2026年3月期 第2四半期(中間期) 連結決算



2026年3月期 第2四半期(中間期) 連結決算 連結損益計算書

売上高 | 自動車向けコンパウンド・着色剤は自動車メーカーの減産の影響が無くなり回復、ウレタン樹脂は採用車種の販売不振により低調に推移
液晶ディスプレイ向けは、顔料は前年同期並みに推移もコーティング剤は第2四半期以降低調に推移

営業利益 | 国内は販売数量の増加、販売価格の改定が進み増益、海外は中国華南・米国現地法人が低調に推移

親会社株主に帰属する当期(中間)純利益 | 特別利益に投資有価証券売却益6億円を計上

単位:億円・切捨	2025年3月期 第2四半期(中間期) 実績	2026年3月期 第2四半期(中間期) 実績	増減 (対前年同期実績)	増減率 (対前年同期実績)	2026年3月期 第2四半期(中間期) 当初予想 (5月15日開示)	達成率
売上高*1	621	617	△4	△0.7%	642	96.1%
営業利益	34	41	6	18.1%	36	114.0%
経常利益	37	44	7	19.7%	42	106.9%
親会社株主に帰属する 当期(中間)純利益	80	37	△42	△53.1%	32	117.6%
EBITDA*2	58	66	7	12.9%	60	109.6%
研究開発費*3	5(9)	5(8)	-	-	-	-
海外売上高比率	27.0%	25.2%	△1.8%	-	-	-
1株当たり 当期(中間)純利益	467.67円	219.27円	△248.40円	-	186.47円	-
為替レート	\$153.68円 €163.94円	\$146.16円 €164.11円	7.52円 円高 0.17円 円安	-	\$148.00円 €159.00円	-
ナフサ価格	77,950円	64,750円	△13,200円	-	67,000円	-

*1 「収益認識会計基準」適用により、売上高に含まれる有償受給材料を売上原価と相殺表示している金額 2025年3月期第2四半期(中間期) 196億円 2026年3月期 第2四半期(中間期) 195億円

*2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

*3 ()内は、既存製品の改良等で発生した技術関連費用

2026年3月期 第2四半期(中間期) 連結決算 セグメント別連結損益計算書

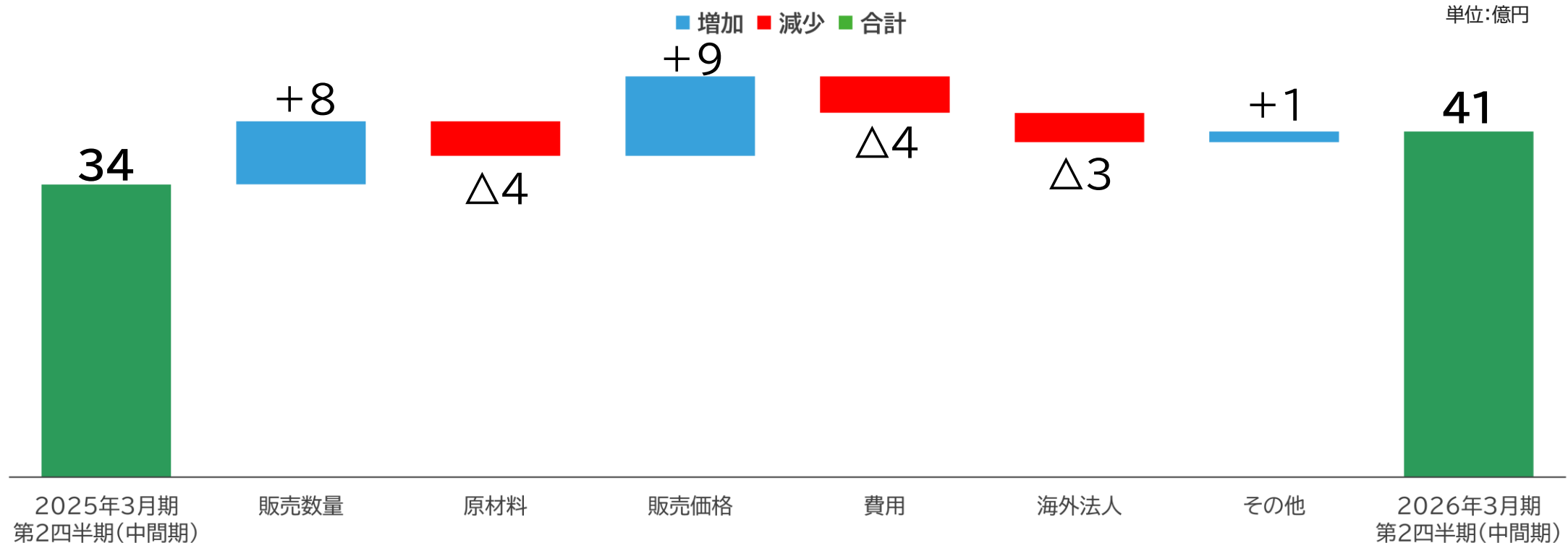
単位:億円・切捨	2025年3月期 第2四半期(中間期) 実績	2026年3月期 第2四半期(中間期) 実績	増減 (対前年同期実績)	増減率 (対前年同期実績)	2026年3月期 第2四半期(中間期) 当初予想 (5月15日開示)	達成率
	カラー&ファンクショナル プロダクト	334	339	5	1.5%	351
ポリマー&コーティング マテリアル	125	121	△4	△3.2%	127	95.8%
グラフィック&プリンティング マテリアル	160	155	△4	△3.1%	164	94.7%
売上高	621	617	△4	△0.7%	642	96.1%
カラー&ファンクショナル プロダクト	15	22	7	47.1%	15	147.3%
ポリマー&コーティング マテリアル	16	13	△3	△18.5%	17	80.8%
グラフィック&プリンティング マテリアル	2	5	2	74.6%	4	127.0%
営業利益	34	41	6	18.1%	36	114.0%

2026年3月期 第2四半期(中間期) 連結決算 業界別の売上高、外部環境と実績

業界	前年同期比 (売上高)	外部環境	2026年3月期 第2四半期(中間期) 実績
輸送機器	△0.5%	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 米国関税政策による影響で米国向けの輸出は減少傾向も、過度に悲観的な見方は後退した ◆ 中国車メーカーがシェアを伸ばしている 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 自動車メーカーの減産影響が無くなり、コンパウンド、着色剤は国内向けを中心に回復。高耐久性ウレタン樹脂は、採用車種の販売不振により低調 ◆ 海外は、タイで新規テーマが寄与も、日系車の販売不振により低調に推移 ◆ 水系表面処理剤(環境対応型ウレタン樹脂)は、採用車種の販売不振により低調
情報・電子	△1.3%	<ul style="list-style-type: none"> ◆ パネルメーカーの稼働率は、大型テレビの販売不振を受けて低下傾向 • 印刷の版があるオフセット印刷から、版が不要なデジタル印刷の需要が拡大 • 電化製品の高機能化、小型化が進行 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ カラーフィルター用顔料は、新規品の立ち上がりがあり好調 ◆ コーティング剤は、液晶パネル向け、半導体向けが若干の出荷減 ◆ ラベル向けの増加があり、インクジェット用顔料・分散液は堅調に推移 ◆ スマートフォン向け耐熱性高機能樹脂は好調に推移
包装	△1.4%	<ul style="list-style-type: none"> • 国内は、物価高による買い控えの影響はあったものの、猛暑やインバウンド消費の拡大もあり堅調に推移 • 海外は、堅調な経済成長による市場拡大を見込む • 脱プラスチック、容器簡略化の進展 	<ul style="list-style-type: none"> • グラビアインキは、国内は前年同期並、海外は低調も、価格改定による増収あり • バイオマスインキ、水性フレキシインキをはじめとするサステナビリティ貢献製品の販売は伸長
産業資材	△1.3%	<ul style="list-style-type: none"> • 熱転写リボンは、食品包装向けを中心に堅調に推移 • 電力ケーブルは、張り替えや再生可能エネルギー需要で、底堅い動きの見通し 	<ul style="list-style-type: none"> • 感熱転写用コーティング剤は、国内中心に堅調に推移 • 電力ケーブルは、一時的に低調も、中期的には安定した需要を見込む
建材・設備	+2.1%	<ul style="list-style-type: none"> • 国内の住宅着工件数は、コロナ禍の落ち込みからは回復も、今後は漸減傾向 • リフォーム需要は一時的には減少も中長期的には上昇傾向 	<ul style="list-style-type: none"> • 国内の新築向けは低調が続いているが、リフォーム向けは堅調な動き

2026年3月期 第2四半期(中間期) 連結決算 連結営業利益の増減要因

- 販売数量** | 自動車向けコンパウンド・着色剤は自動車メーカーの減産の影響が無くなり回復、ウレタン樹脂は採用車種の販売不振により低調に推移
液晶ディスプレイ向けは、顔料は前年同期並みに推移もコーティング剤は第2四半期以降低調に推移
- 原材料・販売価格** | 販売価格は前期からの原材料の値上げ分を含む
- 費用** | 労務費及び設備投資による減価償却費の増加
- 海外法人** | 海外は全般的に好調も、中国・米国現地法人の低調により前年同期には及ばず



2026年3月期 第2四半期(中間期) 連結決算 セグメント別概況-カラー&ファンクショナル プロダクト



Dainichiseika

Color & Functional Products

顔料及び顔料の2次加工製品

情報・電子業界向けの液晶パネル向け顔料が好調。輸送機器業界向けのコンパウンド・着色剤は回復して増益

戦略製品	対前年同期 (売上高)	対予想 (売上高)	2026年3月期 第2四半期(中間期) 実績コメント
情報・電子 インクジェット用顔料・分散液	+1.7%	△3.9%	ラベル向けの増加があり、堅調な動きが継続
情報・電子 カラーフィルター用顔料	+13.9%	+10.3%	パネル業界は生産調整に入っているが、新規品の立ち上がりがあり好調
輸送機器 自動車用コンパウンド・着色剤	+10.1%	+6.3%	自動車メーカーの減産影響が無くなり、国内向けを中心に回復
情報・電子 機能性材料	△33.4%	△7.4%	半導体向け塗料は在庫調整で低調、新規品は得意先や展示会を通じて引き続き拡販中

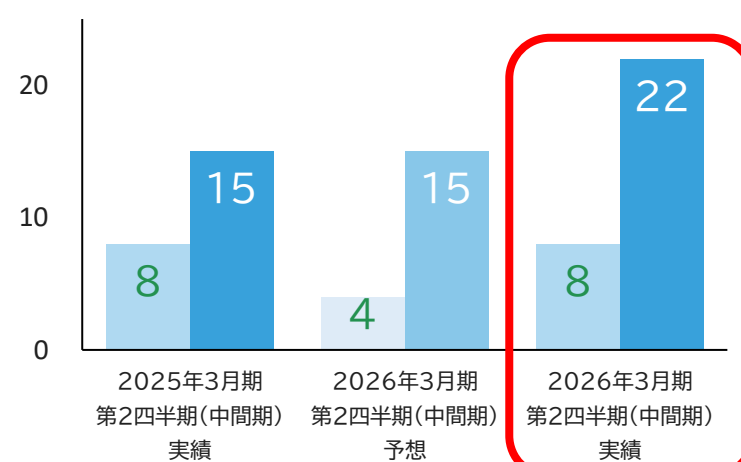
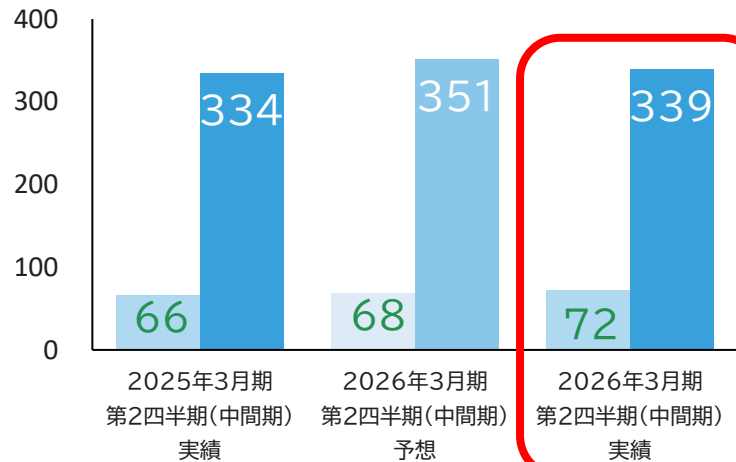
単位:億円

売上高

単位:億円

営業利益

EBITDA・研究開発費



	2025年3月期 第2四半期 (中間期)	2026年3月期 第2四半期 (中間期)
EBITDA*1	28	36
研究開発費*2	3(4)	2(3)

*1 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費
*2 ()内は、既存製品の改良等で発生した技術関連費用

各年度の棒グラフ 左:戦略製品、右:セグメント全体

2026年3月期 第2四半期(中間期) 連結決算 セグメント別概況-ポリマー&コーティング マテリアル-



Polymer & Coating Materials

合成樹脂及び特殊コーティング剤

ウレタン樹脂は、採用車種の販売不振により低調、情報・電子業界向けのコーティング剤も低調となり減益

戦略製品	対前年同期 (売上高)	対予想 (売上高)	2026年3月期 第2四半期(中間期) 実績コメント
輸送機器 高耐久性ウレタン樹脂	△9.2%	△12.5%	自動車向けは採用車種の販売不振により低調も、アパレル向けは堅調に推移
輸送機器 環境対応型ウレタン樹脂	△8.3%	△10.5%	自動車向けの水性表面処理剤は中国では堅調も、国内は低調
情報・電子 耐熱性高機能樹脂	+15.3%	△2.0%	高機能化が進むスマートフォン向けが好調に推移
情報・電子 情報・電子業界向けコート剤	△2.5%	△5.6%	液晶パネル向け、半導体向けが若干の出荷減

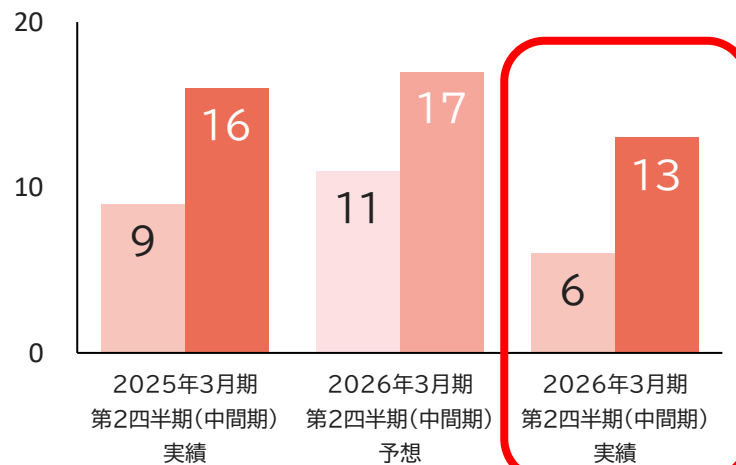
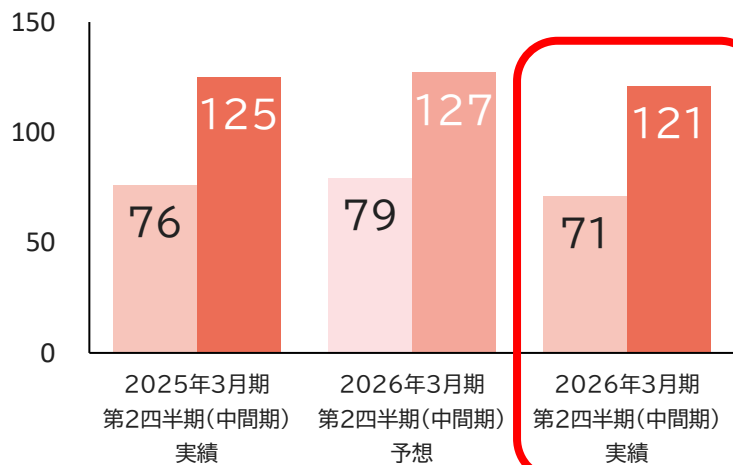
単位:億円

売上高

単位:億円

営業利益

EBITDA・研究開発費



単位:億円

	2025年3月期 第2四半期 (中間期)	2026年3月期 第2四半期 (中間期)
EBITDA*1	24	21
研究開発費*2	1(3)	1(4)

*1 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費
*2 ()内は、既存製品の改良等で発生した技術関連費用

各年度の棒グラフ 左:戦略製品、右:セグメント全体

2026年3月期 第2四半期(中間期) 連結決算 セグメント別概況-グラフィック&プリンティング マテリアル-



Graphic & Printing Materials

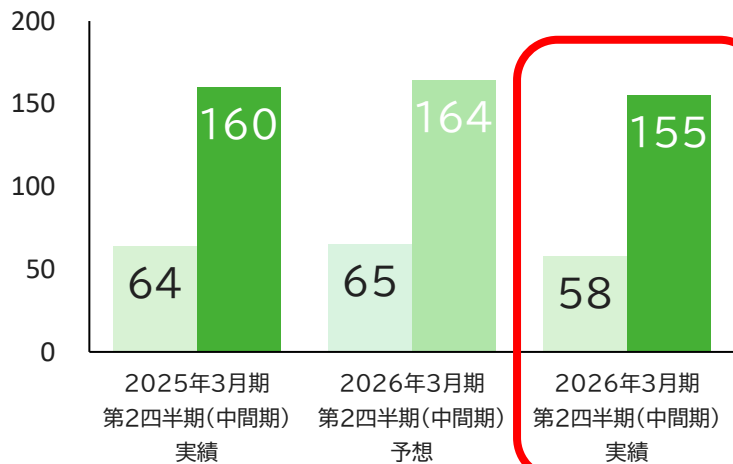
パッケージ用及び広告出版用インキ

海外は競争激化により販売減、国内の包装業界向けは前年同期並みに推移も収益改善を進め増益を確保

戦略製品	対前年同期 (売上高)	対予想 (売上高)	2026年3月期 第2四半期(中間期) 実績コメント
包装 ラベル用インキ、水性フレキソ	+5.3%	+3.8%	ラベル向けは猛暑及びインバウンド消費拡大もあり堅調 水性フレキソは大人用オムツが伸長
情報・電子 成長分野への拡販製品	△16.0%	△1.0%	スマートフォン用中国向けの特需が一服し前年同期割れ
包装 アジア向けインキ	△15.8%	△20.8%	インドネシア現地法人で競争激化等により低調に推移した

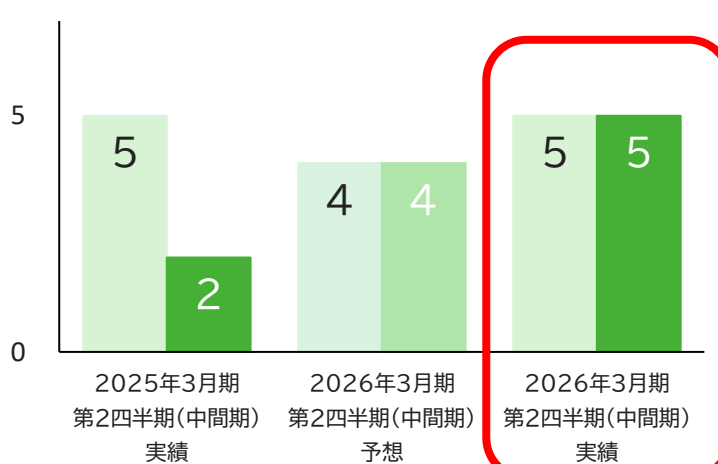
単位:億円

売上高



単位:億円

営業利益



EBITDA・研究開発費

単位:億円

	2025年3月期 第2四半期 (中間期)	2026年3月期 第2四半期 (中間期)
EBITDA*1	6	8
研究開発費*2	0.7(1.4)	0.7(0.9)

*1 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費
*2 ()内は、既存製品の改良等で発生した技術関連費用

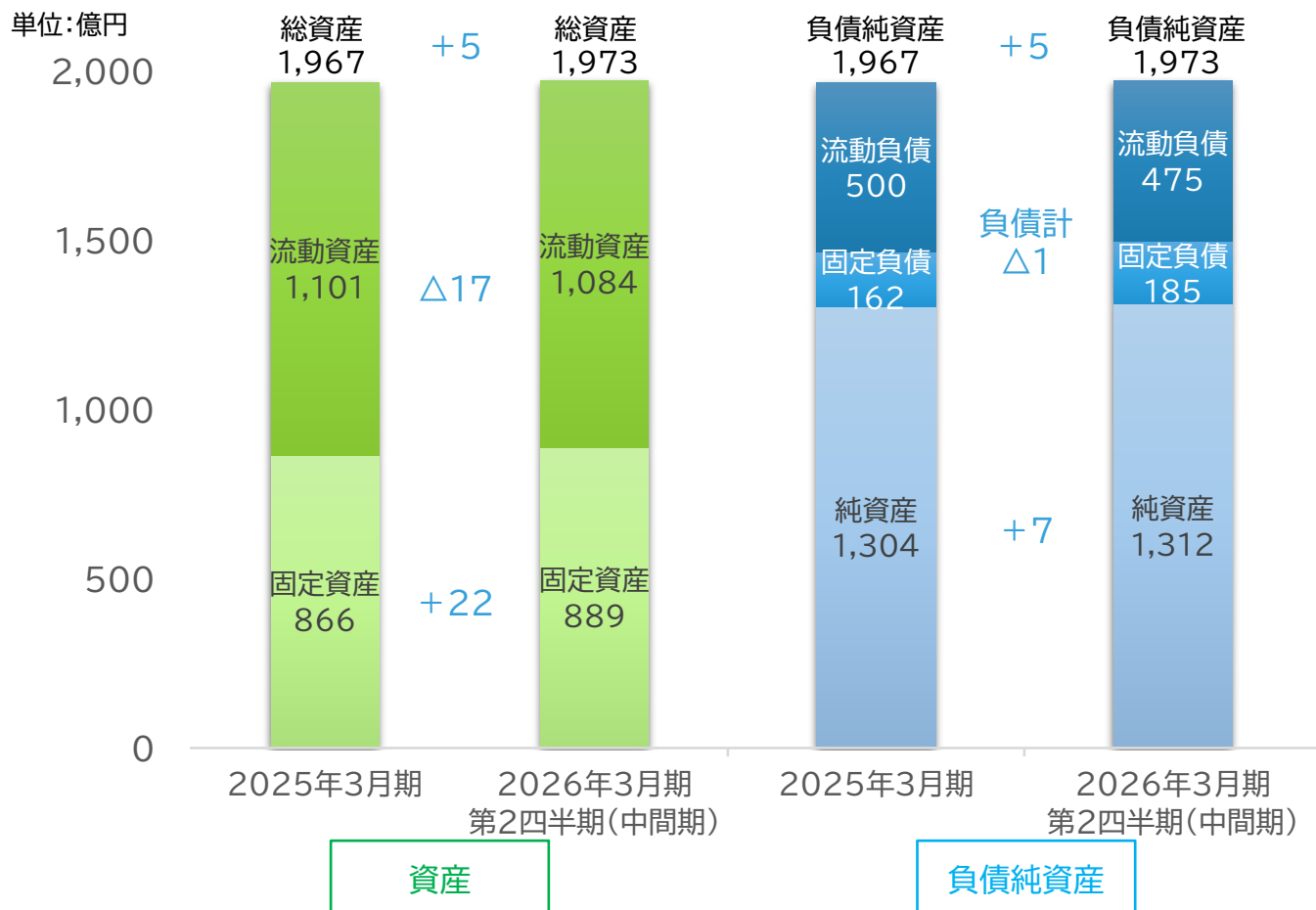
各年度の棒グラフ 左:戦略製品、右:セグメント全体

2026年3月期 第2四半期(中間期) 連結決算 連結貸借対照表

資産 | 総資産増:業績好調により「売掛金及び受取手形」、「棚卸資産」増加も、設備投資・配当等により「現金及び預金」減少、株価上昇に伴い「投資有価証券」増加、インドネシア現地法人での土地取得により「無形固定資産」増加

負債 | 負債微減:海外現地法人で「支払手形及び買掛金」減少

純資産 | 純資産増:「利益剰余金」増加、自己株式の取得(11億円)・処分(4億円)を実施



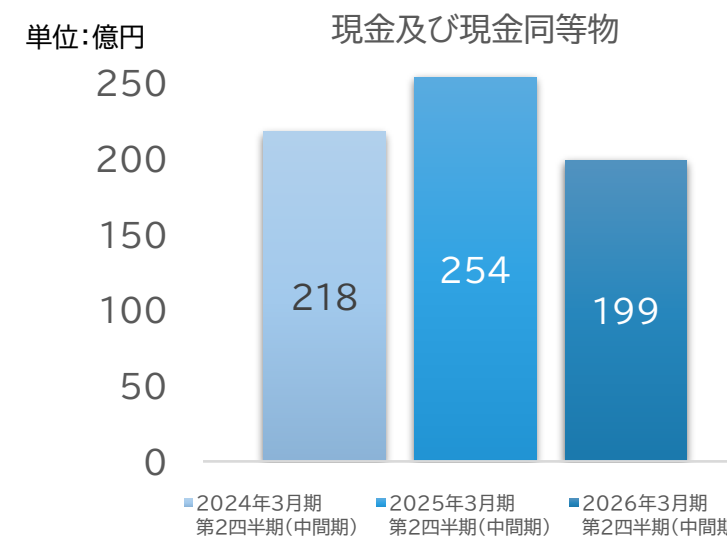
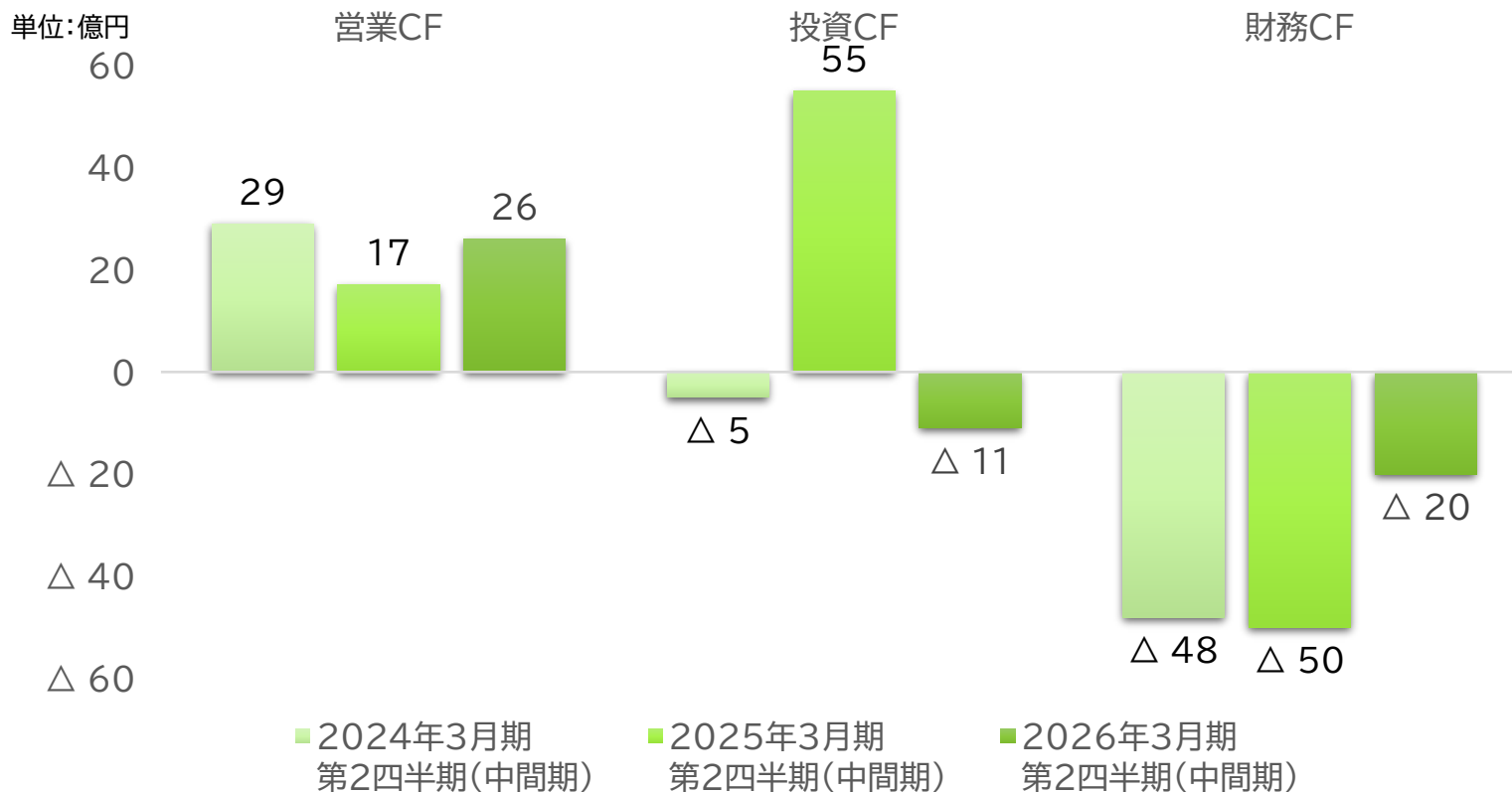
	2025年3月期	2026年3月期 第2四半期	増減
有利子負債	210億円	217億円	+7億円
DEレシオ	0.16	0.17	+0.01
自己資本比率	65.0%	65.4%	+0.4%
1株当たり純資産額	7,459.16	7,554.71	+95.55

2026年3月期 第2四半期(中間期) 連結決算 連結キャッシュ・フロー計算書

営業CF | 税金等調整前当期純利益 + 55・減価償却費 + 25・運転資本(売掛債権・仕入債務・棚卸資産・その他) Δ 35

投資CF | 設備投資 Δ 32・投資有価証券の売却による収入 + 9・定期預金の払戻 + 11

財務CF | 借入金の増加 + 8・配当金支払い Δ 15・自己株式の取得 Δ 11



■2026年3月期 連結業績予想



2026年3月期 連結業績予想 連結損益計算書

販売先 業界動向

輸送機器業界向けは、米国関税による悪化シナリオは後退したが、下期は上期に比較して減速の見通し
情報・電子業界向けは、デジタル印刷の需要が拡大しインクジェット用顔料等が伸長、液晶ディスプレイ向けは在庫調整により低調の見通し

海外は、インドネシア現地法人で競争激化により売上が減少していたが、第3四半期以降は回復の見通し





親会社株主に帰属
する当期純利益

特別利益に投資有価証券売却益15億円の計上に伴う修正

単位:億円・切捨	2025年3月期 実績	2026年3月期 今回予想 (11月10日修正)	増減 (対前期実績)	増減率 (対前期実績)	2026年3月期 当初予想 (5月15日開示)	増減率
売上高	1,247	1,273	25	2.0%	1,273	-
営業利益	70	72	1	2.8%	72	-
経常利益	77	82	4	5.6%	82	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	102	69	△33	△32.9%	61	13.1%
EBITDA*	119	122	3	3.1%	122	-
研究開発費	29	-	-	-	-	-
海外売上高比率	27.1%	-	-	-	-	-
1株当たり 当期純利益	599.63円	404.22円	△195.41円	-	355.45円	-
為替レート	\$152.36円 €162.21円	\$148.00円 €159.00円	4.36円 円高 3.21円 円高	-	\$148.00円 €159.00円	-
ナフサ価格	75,625円	67,000円	△8,625円	-	67,000円	-

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

2026年3月期 連結業績予想 外部環境予想(業界別)及び2026年3月期下期のトレンド

業界	上期→下期 (売上高)	外部環境予想	関連する戦略製品
輸送機器	DOWN 	<ul style="list-style-type: none"> ◆米国関税政策による影響で米国向けの輸出は減少傾向も、過度に悲観的な見方は後退した ◆中国車メーカーがシェアを伸ばしている 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ コンパウンド、着色剤 ◆ 高耐久性ウレタン樹脂 ◆ 環境対応型ウレタン樹脂
情報・電子	UP 	<ul style="list-style-type: none"> ◆パネルメーカーの稼働率は、大型テレビの販売不振を受けて低下傾向 ◆版が不要なデジタル印刷の需要が拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ カラーフィルター用顔料 ◆ コーティング剤 ◆ インクジェット用顔料・分散液
	FLAT 	<ul style="list-style-type: none"> •電化製品の高機能化、小型化が進行 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 耐熱性高機能樹脂
包装	FLAT 	<ul style="list-style-type: none"> •国内は、ラベル向けなど猛暑による消費の拡大があったが、暑い時期が過ぎて、需要の落ち着きが見られる •海外は、堅調な経済成長による市場拡大を見込む 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ラベル用インキ、水性フレキシソ ◆ アジア向けインキ

■株主還元

株式分割

■ 目的

- 当社株式の投資単位当たりの金額を引き下げることにより、より多くの投資家の皆さまが投資しやすい環境を整えることで、投資家層の拡大と当社株式の流動性の向上を図ること

■ 比率

- 普通株式1株につき4株の割合

■ 効力発生日

- 2026年4月1日(水)(予定)

分割比率	1:4
基準日	2026年3月31日
効力発生日	2026年4月1日

	2026年3月期		2027年3月期	
	分割考慮前	分割考慮後	分割考慮前	分割考慮後
中間配当金(円)	72	18	配当性向基準	
期末配当金(円)	72	18	配当性向基準	
特別配当金(円)	30	7.5	30	7.5
合計(円)	174	43.5	配当性向基準 +30	配当性向基準 +7.5



株主還元

配当政策 配当方針

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上の観点から、将来の事業展開、経営基盤の強化並びに内部留保の充実等の事項を総合的に勘案しつつ、株主各位への利益還元を重視した配当政策を継続的に実施することを基本方針としております。

■ 2026年3月期の中間配当金

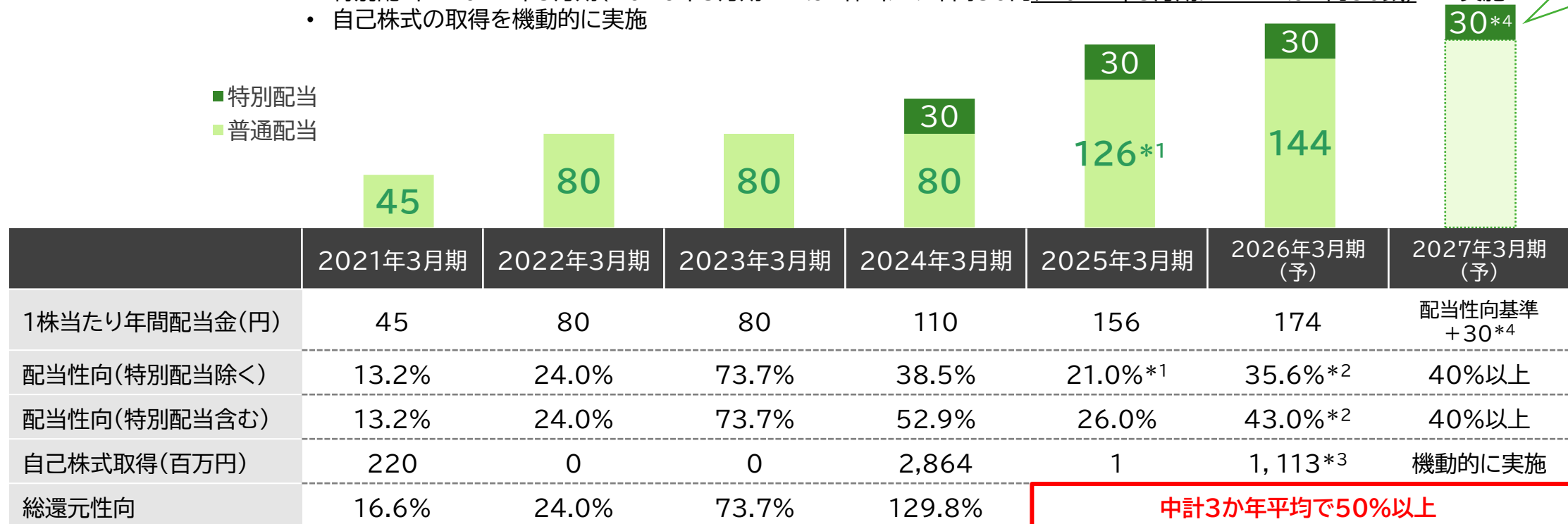
- 1株当たり87円(普通配当72円+特別配当15円) *1株当たり年間配当金(予想)174円(普通配当144円+特別配当30円)

■ 中期経営計画期間3か年(2027年3月期まで)の株主還元方針(下線は株式分割による影響を考慮したもの、実質的な変更は無し)

- 中計3か年平均の総還元性向50%以上を目指す
- 配当性向40%以上(特別配当を除く)
- ただし、1株当たり年間配当金の下限を100円(25円)とする(特別配当を除く)
- 特別配当を2027年3月期(2026年3月期までは1株当たり年間30円、2027年3月期においては7円50銭)まで実施
- 自己株式の取得を機動的に実施

分割後基準
7.5円

■ 特別配当
■ 普通配当



*1 2025年3月期の普通配当126円は、親会社株主に帰属する当期純利益から特別配当の原資である旧川口製造事業所売却益(法人税控除後)を控除した金額に対して配当性向45%相当額となります。

*2 2026年3月期の1株当たり当期純利益予想404.22円に対する配当性向見込みとなります。

*3 2026年3月期第2四半期(中間期)までに取得した金額となります。

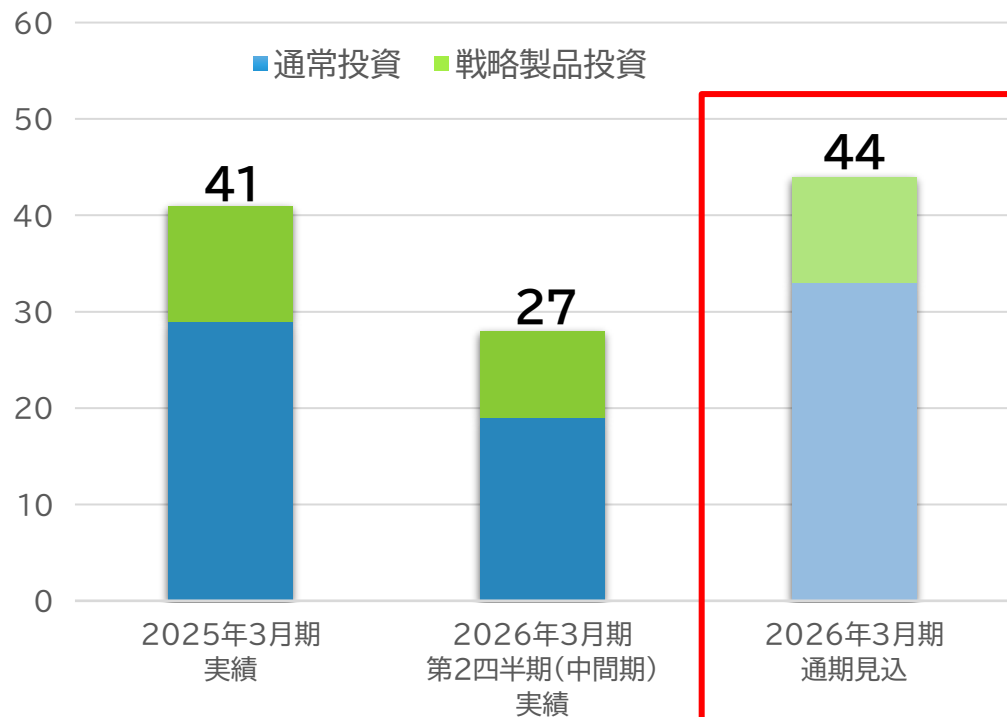
*4 株式分割の影響を考慮していない金額となります。

■中期経営計画2年目の進捗 設備投資計画進捗

中期経営計画2年目の進捗 設備投資計画進捗

	2025年3月期 実績	2026年3月期 第2四半期(中間期) 実績	2026年3月期 通期見込
戦略製品投資	12億円	9億円	11億円
通常投資	29億円	19億円	33億円
合計	41億円	27億円	44億円

(単位:億円)



- 2026年3月期第2四半期(中間期)は、戦略製品投資として、HPU(ヒドロキシポリウレタン)*新製法パイロットプラント、タイ現地法人の増能力などを実施
- インドネシア現地法人の工場隣地(約6億円、23,440m²)を取得、工場拡張や研究施設の建設を検討中

* CO₂を原料にした環境対応型ウレタン樹脂
ガスバリア性、金属密着性、硬化後の特性(耐久性)に優れており、
バインダーや添加剤、バリア性コーティング剤としての用途を想定

■ 参考資料



企業理念

「人に興味を持とう」
 「新しいことに興味を持とう」
 「未来に興味を持とう」

会社名	大日精化工業株式会社 Dainichiseika Color & Chemicals Mfg. Co., Ltd.
本社所在地	東京都中央区日本橋馬喰町一丁目7番6号
創業	1931年10月16日
代表者	代表取締役社長 高橋 弘二(たかはし こうじ)
資本金	100億39百万円(東京証券取引所 プライム市場)
従業員数	連結3,594名(2025年3月31日現在)
連結売上高	1,247億60百万円(2025年3月期)
グループ会社	国内9社 海外17社



沿革

1931年 創業

顔料の多くを輸入に頼っていたことを憂い顔料の国産化を目指して創業

創業者 高橋 義博



- ① 有機無機合成 顔料処理技術
- ② 分散加工技術
- ③ 樹脂合成技術

1938年 顔料生産開始



1940年代～ 顔料加工分野への進出

- 1944年 顔料の2次加工製品として、印刷インキ上市
- 1948年 塩化ビニル用着色剤「ビニルトナー」上市
- 1950年 塩ビ用グラビアインキを上市
- 1953年 合成繊維原液着色剤、捺染材料・着色剤 上市
- 1955年 各種樹脂用着色剤の開発上市

1960年代～ 海外進出の本格化

- 1962年 香港に営業拠点設立後、マニラ、ソウル、ニューヨークに開設
- 1968年 東海製造事業所開設
- 1974年 台湾に生産拠点設立
- 1984年 ミラノに営業拠点設立

非色彩分野への事業拡大

- 1967年 ウレタン樹脂事業参入、液状合成皮革用ポリウレタンを上市
- 1970年 食品包装フィルム用グラビアインキを開発上市
- 1975年 日本初のコンピュータカラーマッチングシステムを発表
- 1976年 紫外線硬化型コーティング剤事業参入
- 1977年 熱可塑性ウレタンエラストマーを上市



1980年代～ 海外生産拠点の強化

- 1988年 アメリカに生産拠点設立
- 1989年 タイに生産拠点設立
- 1995年 インドネシア、東莞に生産拠点設立
- 2003年 上海に複合生産拠点設立
- 2006年 ベトナムに生産拠点設立
- 2008年 インドに生産拠点設立

環境配慮型製品の開発

- 1980年 キナクリドン顔料を上市
- 1985年 シリコーン・ウレタン樹脂
- 1985年 天然物由来ポリマー・キチン・キトサン
- 1986年 軟質硬質両用塩ビ用着色剤 (CCMと連動)
- 1998年 ペットボトル用剥離脱色型グラビアインキ
- 1998年 非塩ビ用高濃度マスターバッチ

2000年代～ 新分野への展開と 基盤事業整備

- 2013年 メキシコに生産拠点設立
- 2015年 インドネシアの生産能力増強
- 2017年 インドの生産能力増強
- 2019年 佐倉製造事業所、アメリカ、タイの生産能力増強

環境配慮型製品の拡大

- 1998年 IJ分散体開発
- 2003年 CF用顔料本格販売
- 2005年 フィルム用水性フレキシインキ
- 2011年 CO2を原料にしたウレタン樹脂
- 2013年 バイオマスTPU
- 2016年 バイオマス・グラビアインキ
- 2018年 バリア性コーティング剤・接着剤
- 2021年 生分解性微粒子



- 2021年
- 坂東製造事業所
- 佐倉テクノロジーイノベーションセンター

(億円)
2,000

1,500

1,000

500

0

1940年度

1960年度

1980年度

2000年度

2020年度

創業

コア技術の確立


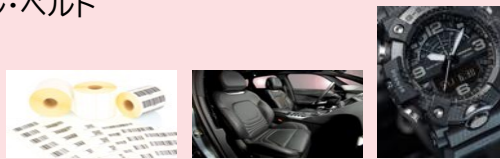







推進

拡大

深化

※2021年度以降は収益認識基準を適用し、売上高が約400億円減少しています

当社事業セグメントと最終製品のイメージ

	Color & Functional Products	Polymer & Coating Materials	Graphic & Printing Materials
	顔料及び顔料の2次加工製品	合成樹脂及び特殊コーティング剤	パッケージ用及び広告出版用インキ
主な製品	<ul style="list-style-type: none"> ● 顔料・カラーベース ● 繊維用着色剤・捺染剤 ● プラスチック用着色剤・機能剤 	<ul style="list-style-type: none"> ● ウレタン樹脂 ● コーティング剤 ● 天然物高分子 	<ul style="list-style-type: none"> ● グラビアインキ ● フレキシソインキ ● オフセットインキ
主な利用用途	<ul style="list-style-type: none"> ・ 塗料・印刷インキ ・ トナー・IJプリンタ用インキ ・ LCDカラーフィルタ ・ 建材・日用品・紙製品 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合成皮革(家具、衣料) ・ 車両内装材・建材・日用品 ・ 電線・ケーブル・ベルト ・ 化粧品 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食品・日用品包装材 ・ 食品用トレイ 
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車両・産業資材 ・ インテリアファブリック ・ アパレル製品 ・ 紙 	<ul style="list-style-type: none"> ・ LCDパネル ・ 加飾用フィルム ・ パソコン・事務機器 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飲料ボトルラベル ・ 産業資材・建材 ・ ダンボール・包装材 
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車両 ・ 家電・日用品・アウトドア用品 ・ 産業資材・農業資材・建材 ・ 食品包装・トイレタリー 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 化粧品 ・ 排水浄化・水処理 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広告・書籍 ・ パッケージ 

当社セグメントの販売先業界

B to B メーカーとして多様な業界に最適な製品を提供

Color & Functional Products | 顔料及び顔料の2次加工製品

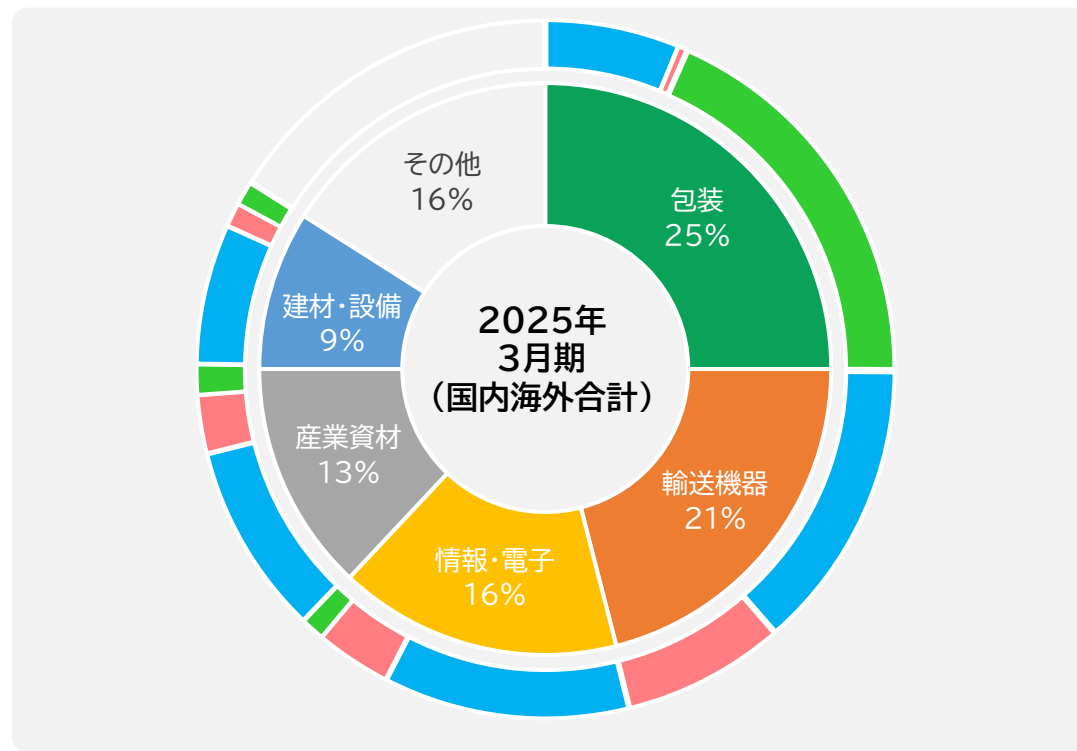
- 輸送機器
- 情報・電子
- 包装
- 産業資材
- 建材・設備

Polymer & Coating Materials | 合成樹脂及び特殊コーティング剤

- 輸送機器
- 情報・電子
- 衣料品・服飾品
- 産業資材
- 建材・設備

Graphic & Printing Materials | パッケージ用及び広告出版用インキ

- 包装
- 広告・出版

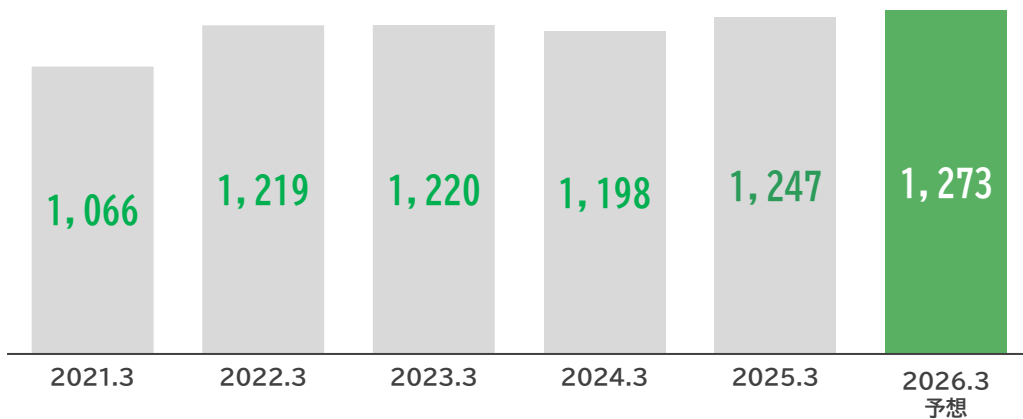


- Color & Functional Products
- Polymer & Coating Materials
- Graphic & Printing Materials

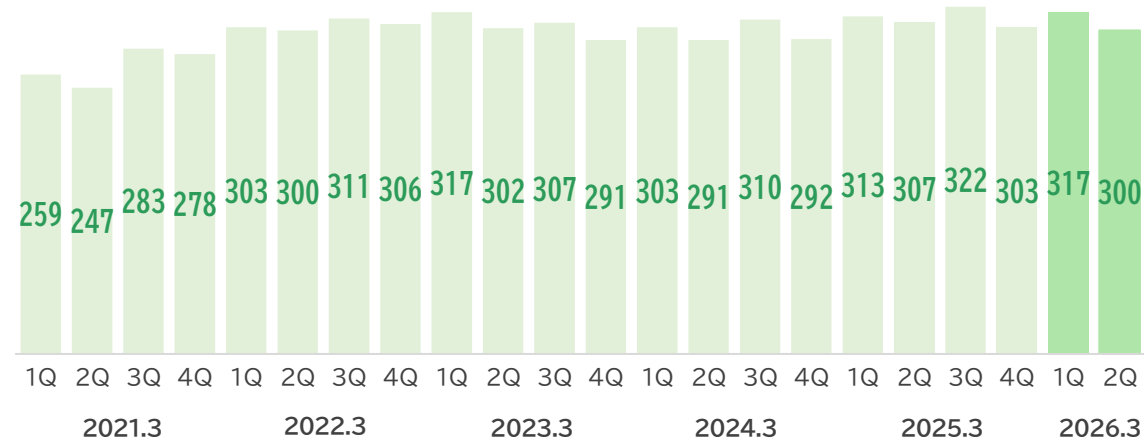


連結業績推移

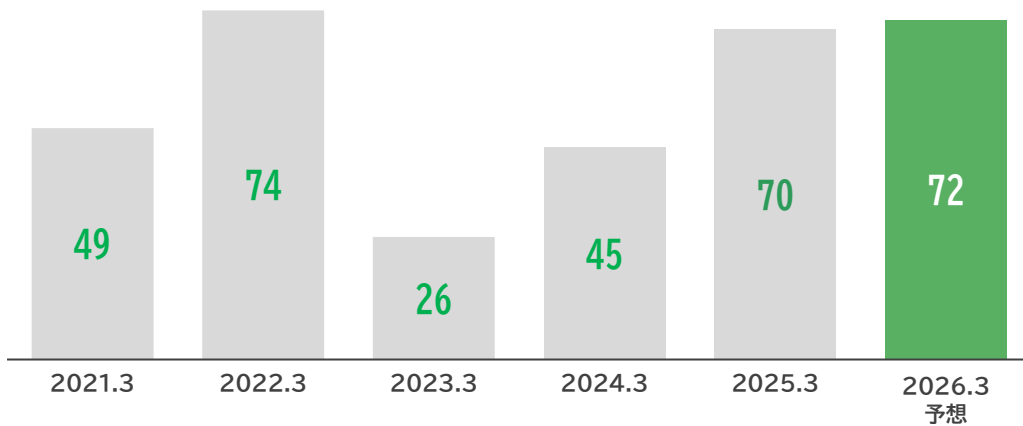
売上高・通期(単位:億円)



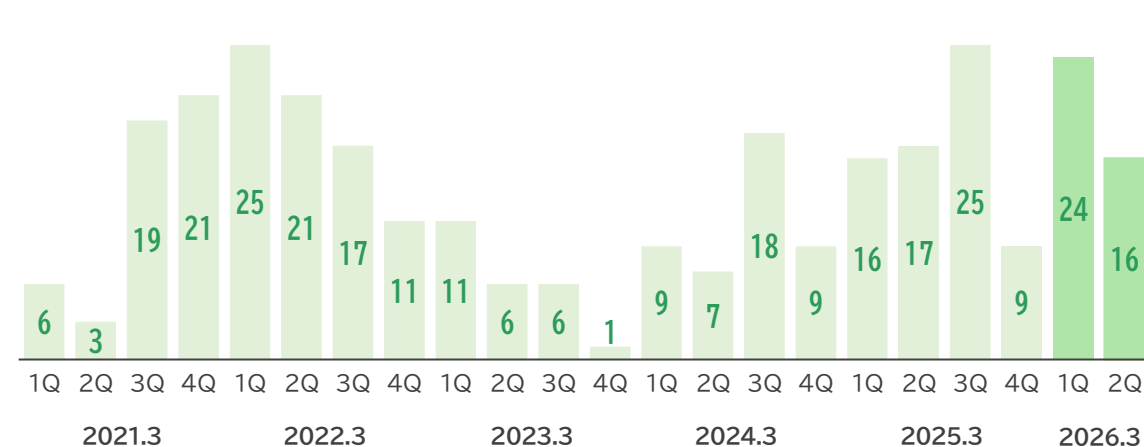
売上高・四半期(単位:億円)



営業利益・通期(単位:億円)



営業利益・四半期(単位:億円)





本資料の取り扱いについて

- 本資料に含まれる将来の見通しに関する記述等は、現時点における情報に基づき判断したものであり、経済動向及び市場環境や当社の関連する業界動向、その他内部・外部要因等により変動することがあります。従いまして、実際の業績が本資料に記載されている将来の見通しに関する記述等と異なるリスクや不確実性等がありますことを、予めご了承ください。
- 本資料に掲載されている情報に関して、当社は細心の注意を払っておりますが、掲載した情報に誤りがあった場合や、第三者によりデータの改ざん、データダウンロード等によって生じた障害等に関し、事由の如何を問わずに一切責任を負うものではありません。